

神楽

いわみ神楽と ひろしま神楽

中川戸神楽団 茨木／青葉の笛

後野神楽社中 黒塚／八岐大蛇

2016年

6月19日(日)

14:00開演 (13:30開場)

周東パストラルホール
(岩国市周東文化会館)

入場料 (全席指定・税込)	一般	2,500円(当日 3,000円)
	友の会会員	2,000円(当日 2,500円)
	高校生以下	1,500円(当日 2,000円)

主催:岩国市周東文化会館

後援:岩国市教育委員会/岩国市社会福祉協議会 玖珂・周東支部/周東町自治会長連絡協議会/
岩国市連合婦人会 玖珂・周東支部/玖珂町文化協会/周東文化協会/中国放送/
中国新聞防長本社/(株)アイ・キャン

お問合せ 岩国市周東文化会館 ☎0827-84-1400

プレイガイド

- ◆岩国市周東文化会館
- ◆岩国市役所生涯学習課(4F)
- ◆周南市文化会館
- ◆スターピアくたまつ
- ◆光市民ホール
- ◆ふちだ楽器店岩国店
- ◆岩国スズヤ
- ◆都野書店(ゆめタウン南岩国・柳井店)
- ◆ローソンチケット(Lコード:61505)

チケット発売日
3月23日

PASTORAL HALL



いわみ
神楽

後野
神楽社中
(島根県浜田市)

私たちの住む浜田市後野町には古くより神楽社中3団体が存在しておりましたが、昭和30年・40年代に2団体が活動中止、現社中は大正9年に結成されたと伝えられ、昭和48年に全町内への呼びかけで、後野神楽社中と改称されて今日に至ります。八調子神楽を古き先人より学び、社中の伝統を守ると共に、新しい神楽の魅力を模索しながら郷土の伝統芸能の維持継承と地域の活性化に努めております。今後とも、皆様に感動を与えられる神楽を目指して日夜精進してまいりますので、暖かいご支援ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

くろづか
黒塚

『鬼が棲む』と里人は恐れ、近づくことのない那須野ヶ原の黒塚へ、那智の東光坊の山伏・阿闍梨祐慶法印と強力がさしかかる頃、日が暮れました。そこで、柴の庵(粗末な小屋)を見つけ、強力は一夜の宿を願ひ、借りることが出来ました。この宿主こそ、里人に恐れられている金毛九尾の狐の化身だったのです。我が身の業を恥じた狐は仏法に救いを求めますが、性と因果からは逃れられず、夜半、本性を現します。危うく逃げた二人でしたが、たちまち追い来た狐に強力は襲われてしまいます。その後、弓の名人・三浦介義純、上総介広常によって悪狐は退治されます。悪狐は、絶命の時「毒石となって世に害を放ってやる」と言い残します。この物語は「安達ヶ原の鬼女の伝説」と「那須野ヶ原の殺生石(悪狐)の伝説」この二つの伝説が組み合わされた物語です。

やまたのおろち
八岐大蛇

出雲の国に暮らす足名稚・手名稚老夫婦には八人の娘がいました。しかし年毎に一人またひとりと大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の娘が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の姫・奇稲田姫は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原から舞い降りた須佐乃命が通りかかり、その訳を聞きます。命は、大蛇退治を決め、老夫婦に八塩折の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立てます。やがて、どこからともなく大蛇が現れ、毒酒に映った姫の影を飲み干していきます。酔いの回るほどに暴れ狂い、しだいに酔い伏してしまいます。これを待ち構えていた命は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。大蛇の腹を切り裂くと、一本の刀が出てきます。これを天叢雲剣と名づけ、天照大神に捧げます。そしてめでたく奇稲田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。

ひろしま
神楽

中川
戸神楽団
(広島県山県郡北広島町)

中川戸神楽団は、明治8年に吉藤八幡神社の氏子達により結成され、当時は六調子による神楽を舞っていました。戦後は、高田舞と称し、八調子による神楽を導入して神楽の伝承保存に努めてまいりました。最近ではオリジナル神楽も発表し、一生懸命頑張っています。これからも「感動ある神楽」を目指し、団員一同頑張る所存ですので、何卒温かいご支援とご指導の程よろしくお願ひいたします。

いばらぎ
茨木

平安時代も中頃、京の都・一条戻り橋には毎夜鬼が現れ、都人は不穏な日々を過ごしていました。その頃、都の守・源頼光は、四天王の一人・渡辺綱に名刀「髭切丸」を授け、鬼退治に向かわせました。綱は鬼を取り逃したものの、片腕を持ち帰ったのです。さっそく陰陽師が占ひ、「七日以内に必ず鬼が取り返しに来るので、その間、絶対に人に会ってはいけません」と言います。七日目の夜・綱の伯母「真柴」が綱に会いに来ます。会ってはいけませんが綱は、情に負け真柴を館に入れ、鬼の片腕を見せます。すると、魔性の本性を現し、真柴は鬼となって自らその片腕を付け『虚空飛天』の妖術で大江山へと飛び去っていくという物語です。

あおば
青葉の笛

仁明天皇の時代、信州信濃の戸隠山のとりの荒倉山に素晴らしい音色の笛「青葉の笛」を持つ官那羅がいました。笛の音はしじまを渡り、都にまで届いたと言います。帝の勅命を受けた在原業平は、笛の名手に化け、官那羅の持つ「青葉の笛」をだまし取ります。官那羅の手下の九鬼と御影は、京に上り笛を奪い返し、業平の命も狙いますが、業平は諏訪明神によって助けられます。帝の強力な力によって人の幸せは踏みにじられ、しかも鬼にされ討たれるという物語です。

